

祝

町制施行85周年記念式典



と き 令和7年7月24日（木）

午前10時00分

ところ 広野町中央体育館



広 野 町

次 第

第 1 部 記念式典、表彰式

- 1 開式のことば
- 2 国歌斉唱
- 3 式 辞
- 4 挨拶
- 5 表彰
 - (1) 町表彰条例に基づく表彰
 - (2) 一般表彰
 - (3) 感謝状贈呈
- 6 祝 辞
- 7 来賓紹介
- 8 祝電披露
- 9 受章者代表謝辞
- 10 閉式のことば

第 2 部 記念講演

演題 「元気で健康な人生を送るために必要なこと」

講師 馬場医院 院長 小鹿山 博之 先生



ごあいさつ

広野町長 遠藤 智

本日、ここに広野町町制施行85周年記念式典を挙行するにあたり、公私共にご多用の中、復興大臣 伊藤 忠彦 様、経済産業副大臣 大串 正樹 様、福島県知事 内堀 雅雄 様をはじめ、東日本大震災・原子力災害からの15年目の歩みの中、様々な困難、ご労苦を正面に受け止め、厳しい過酷な状況からふる里復興・創生に歩む双葉地方8町村はもとより、浜通り15市町村をはじめ、全国より多数のご来賓の皆様並びに町民の皆様のご臨席を賜り、心より御礼申し上げます。関係各位のご臨席の下、本式典を挙行できますことは、この上ない慶びであり、心より感謝申し上げます。

本日の記念式典を通し、皆様への感謝の意を町内外にお届けし、福島復興・創生、新たな第3期復興創生期間に向けて、新たな一歩を踏み出したいと存じます。日々刻々と変化する社会情勢の中、復興・創生の歩みにおいて、皆様との絆を更に深め、広域的な連携により地域全体の持続可能性や魅力を高め、更なる福島復興・創生に邁進してまいりたいと存じますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

広野町は、ふる里の歴史、伝統、文化に対する誇りを胸に、本年を“ふる里復興・創生「漸進の年」”と位置付け、着実に歩みを進めながら、東日本大震災からの新たな時代の防災に強い“安心・安全な共生のまちづくり”に向け、新たな未来創造を展望してまいります。

結びに、町制施行85周年の節目にあたり、震災からの復興において、復旧、再生、創生への道のりの中、これまで多くの皆様より賜りました多大なるご厚情とご協力、ご支援に対し、深甚なる感謝と御礼を申し上げ、町制施行85周年を迎えてのご挨拶とさせていただきます。

広野賛歌

作詞 牧水 元喜
作曲 岡部 富士夫

一. あぶくまみねを

清き流れの

「汽車」の唱歌に

広野の原を

恵み豊かな

ああ 広野の町よ

緑かがやく

みなもとに

浅見川

歌われし

うるおして

地となれり

我が町よ

二. 野には山百合

化石の里の

肌にやさしき

山にいだかれ

ここ東北に

ああ 広野の町よ

心やすらぐ

メジロ鳴き

折木には

湯の香り

海のぞみ

春告げる

我が町よ

三. 寄せては返す

むかしは語る

つわものどもの

二つ沼なる

万葉びとの

ああ 広野の町よ

歴史はぐくむ

潮騒に

日の出松

夢のあと

石碑に

歌もあり

我が町よ

* 町表彰条例に基づく表彰 *

(敬称略、順不同)

◆ 特別功労表彰 ◆

(地方自治) 永年にわたる地方自治振興及び町政進展への多大な功績による

- | | |
|-----------|---------|
| ○ 北 郷 幹 夫 | ○ 門 馬 巧 |
| ○ 小 磯 利 雄 | |

◆ 功 労 表 彰 ◆

(地方自治) 永年にわたる地方自治振興及び町政進展への多大な功績による

- | | |
|-----------|-----------|
| ○ 畑 中 大 子 | ○ 門 馬 まりえ |
|-----------|-----------|

◆ 永年勤続表彰 ◆

(消防団員) 永年にわたる予防消防及び防災意識普及への多大な尽力による

- | | |
|-----------|-----------|
| ○ 鈴 木 達 夫 | ○ 小 貫 隆 幸 |
| ○ 作 山 正 | ○ 黒 田 泰 将 |
| ○ 佐 藤 尚 文 | ○ 横 山 正 文 |
| ○ 北 郷 幸 生 | ○ 遠 藤 康 博 |
| ○ 大和田 淳 | ○ 日 下 明 則 |
| ○ 根 本 満 | ○ 阿 部 秀 明 |
| ○ 北 郷 功 | |

◆ 善 行 表 彰 ◆

(環境美化) 永年にわたる公共用地の環境美化への多大な尽力による

- | | |
|-----------|-----------|
| ○ 横 山 俊 雄 | ○ 鈴 木 耕 平 |
| ○ 赤 井 一 夫 | |

* 一般功績表彰 *

(敬称略、順不同)

◆ 一般表彰 ◆

(富岡地区交通安全協会 広野分会役員、富岡地区防犯指導隊 広野分隊員)

通学路や公道等における道路交通の安全活動への寄与と詐欺犯罪の被害防止活動への寄与などの多大な尽力による

○ 長谷川 忠 昭

(富岡地区交通安全協会 広野分会役員)

通学路や公道等における道路交通の安全活動への寄与と多大な尽力による

○ 猪 狩 マス子

* 感謝状贈呈 *

(敬称略、順不同)

◆ 感謝状 ◆

東日本大震災からの復旧・復興支援等への貢献による

○ 富岡地区交通安全協会広野分会

○ 富岡地区防犯指導隊広野分隊

○ 広野町消防団

○ 広野町婦人消防隊

○ 杉 昭 重

○ 広野夢大使 な す び

○ 広野夢大使 小 沢 晴 司

○ 広野夢大使 西 芳 照

○ 広野夢大使 平 井 元 喜

- 公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団
理事長 中 山 幹 康
- 株式会社いわきスポーツクラブ 代表取締役 大 倉 智
- 鶴 田 松 盛
- 加 藤 力之輔
- 鈴 木 正 範
- 新 妻 良 平
- 鈴 木 す み
- あぶくま信用金庫 理事長 太 田 福 裕
- 株式会社ウイルプラスホールディングス
代表取締役社長 成 瀬 隆 章
- 株式会社北電子 代表取締役社長 小 林 友 也
- 富士フイルム株式会社 代表取締役 後 藤 禎 一
- 渡 辺 忠
- 長谷川 倫 子
- 阿久津 恵 子
- 学校法人沼津学園 理事長 杉 山 盛 雄
- 東日本国際大学 理事長 緑 川 浩 司
- 東日本国際大学 総長
広野町ふるさと創生大学 名誉学長 吉 村 作 治

- 東日本国際大学 副学長 福 迫 昌 之
- 福島工業高等専門学校 教授 内 田 修 司
- 福島工業高等専門学校 教授 芥 川 一 則
- 早稲田大学 大学院アジア太平洋研究科 教授 松 岡 俊 二
- 早稲田大学 環境総合研究センター 研究院教授 永 井 祐 二
- 東京大学 アイソトープ総合センター 教授 和 田 洋一郎
- 東京大学 アイソトープ総合センター 教授 秋 光 信 佳
- 東京大学 アイソトープ総合センター 広野サテライト
客員研究員 裏 出 良 博
- 医療法人社団 養高会 高野病院 院長 社 本 博
- 学生団体AAO 市 川 夏 輝 (前代表)
- 学生団体AAO 小 林 幹 (代表)
- 合同会社ちやのまプロジェクト

* 来 賓 御 芳 名 *

(敬称略、順不同)

復興大臣、衆議院議員

伊 藤 忠 彦

経済産業副大臣兼原子力災害現地対策本部長、

参 議 院 議 員

大 串 正 樹

衆 議 院 議 員

坂 本 竜太郎

衆 議 院 議 員

齋 藤 裕 喜

参 議 院 議 員

森 まさこ

参 議 院 議 員

若 松 謙 維

参 議 院 議 員

星 北 斗

復興庁 福島復興局長

志 田 文 毅

原子力損害賠償・廃炉等支援機構 (NDF) 理事長

山 名 元

福島相双復興推進機構 理事長

北 村 清 士

福 島 県 知 事

内 堀 雅 雄

福 島 県 議 会 議 員

橋 本 徹

福 島 県 議 会 議 員

佐々木 恵 寿

相 馬 市 長

立 谷 秀 清

い わ き 市 長

内 田 広 之

南 相 馬 市 長

門 馬 和 夫

田 村 市 長

白 石 高 司

小 野 町 長

村 上 昭 正

平 田 村 長

澤 村 和 明

西 会 津 町 長

薄 友 喜

川 俣 町 長

藤 原 一 二

新	地	町	長
飯	館	村	長
富	岡	町	長
檜	葉	町	長
川	内	村	長

双葉地方町村会 長・大熊町長

双	葉	町	長
浪	江	町	長
葛	尾	村	長
檜	葉	町	議 会 議 長
富	岡	町	議 会 議 長
川	内	村	議 会 議 長
大	熊	町	議 会 議 長
双	葉	町	議 会 議 長
浪	江	町	議 会 議 長
葛	尾	村	議 会 議 長

双葉地方町村会 常務理事

双葉地方広域市町村圏組合 事務局 長

双葉地方水道企業団 企業 長

広	野	町	議 会 議 長
広	野	町	議 会 副 議 長
広	野	町	議 会 議 員
広	野	町	議 会 議 員
広	野	町	議 会 議 員

大	堀	武
杉	岡	誠
山	本	育 男
松	本	幸 英
遠	藤	雄 幸
吉	田	淳
伊	澤	史 朗
吉	田	栄 光
篠	木	弘
青	木	基
堀	本	典 明
渡	邊	一 夫
仲	野	剛
岩	本	久 人
山	本	幸 一 郎
吉	田	義 則
御	代	典 文
鈴	木	孝 治
松	本	幸 英
渡	邊	正 俊
遠	藤	浩
門	馬	まり え
北	郷	伯 弘
西	内	玄 太

員	議	會	町	野	広
員	議	會	町	野	広
員	議	會	町	野	広
員	委	查	監	表	代
長			町		元
長			町		前
役			助		元
長		町	副		元
長		町	副		元
長		町	副		元
長		町	副		前
役		入	收		元
長		育	教		元
長		育	教		元
長		育	教		元
長	議	會	町	野	元
長	議	會	町	野	元
長	議	會	町	野	前
長	議	會	町	野	元
長	副	會	町	野	元
長	副	會	町	野	元
長	副	會	町	野	前
員	議	會	議	町	元
員	議	會	議	町	元
員	議	會	議	町	元

雄	光	木	高
義	忠	邊	渡
雄	久	本	西
美	寛	生	針
眞		松	小
星	基	田	山
衛	邦	本	根
英	義	越	塚
喜	耕	田	黒
俊		和	大
人	正	本	松
夫	章	本	松
章	鋭	川	芦
一		野	浅
行	修	本	根
一	紀	本	坂
昭	紀	木	鈴
夫	幹	郷	北
一	伸	津	中
長	久	辺	渡
雄	利	磯	小
子	綾	邊	渡
次	良	本	根
平	良	妻	新

元町議会議員
 元町議会議員
 前町議会議員
 前町議會議員
 保護司
 行政相談委員

富岡地区交通安全協会広野分会 分会長

第 1 行政區長
 第 2 行政區長
 第 3 行政區長
 第 4 行政區長
 第 5 行政區長
 第 6 行政區長
 第 7 行政區長
 第 8 行政區長
 第 9 行政區長
 第 10 行政區長
 第 11 行政區長
 第 13 行政區長
 第 14 行政區長
 第 15 行政區長
 第 16 行政區長
 第 17 行政區長
 第 18 行政區長

鈴木正範
 塩史子
 畑中大子
 阿部憲一
 金子晴美
 中津由美美
 水竹顯二
 坂本修一
 木田豊寿
 青木一
 矢内正三
 星直延
 水竹顯二
 芳賀吉繼
 渡邊孝一
 柏吉栄
 鈴木惠太郎
 大和田一男
 根本賢仁
 鯨岡公一
 遠藤祐己
 大和田孝明
 畑中敏美
 渡邊孝教

第 1 9 行 政 区 長

第 2 0 行 政 区 長

第 2 1 行 政 区 長

第 2 2 行 政 区 長

第 2 3 行 政 区 長

第 2 4 行 政 区 長

第 2 5 行 政 区 長

第 2 6 行 政 区 長

広 野 夢 大 使

広 野 夢 大 使

学校法人昌平黌 理事長

福島工業高等専門学校 校長

教育委員会教育長 職務代理者

広野町農業委員会 会長

広野町選挙管理委員会 委員長

広野町固定資産評価審査委員会 委員

広野町固定資産評価審査委員会 委員

広野町固定資産評価審査委員会 委員

人 権 擁 護 委 員

人 権 擁 護 委 員

人 権 擁 護 委 員

広野町文化協会 会長

広野町女性会 会長

広野町食生活改善推進協議会 会長

猪 狩 敬 一

水 戸 哲 司

萱 間 守

大 塚 伸 一

北 郷 幹 夫

作 山 正

滝 本 友 二

小久保 孝 雄

西 芳 照

岬 花 江

緑 川 浩 司

岡 本 任 弘

渡 辺 昇

鈴 木 利 令

根 本 克 美

池 田 政 明

鈴 木 光 一

小 野 修 司

島 村 智 子

大和田 文 子

根 本 耕 一

芳 賀 弘 美

渡 辺 美枝子

松 本 登志枝

広野町消防団 団長

広野町消防団婦人消防隊 隊長

広野町民生委員協議会 会長

広野町公害対策審議会 会長

広野町戦没者遺族会 会長

広野町赤十字奉仕団 委員長

広野町社会福祉協議会 副会長

広野町社会福祉協議会 副会長

広野町社会福祉協議会 事務局長

広野町老人クラブ連合会 会長

広野駅環境美化推進協議会 会長

広野町鳥獣被害対策実施隊 隊長

広野町土地改良区 理事長

広野町統計調査員協議会 会長

広野町観光協会 会長

富岡地区防犯指導隊広野分隊 分隊長

広野町警戒パトロール隊 隊長

国民健康保険事業の運営に関する協議会 会長

文化財保護審議会 会長

医療法人社団養高会 理事長

馬場医院 院長

公益財団法人ときわ会 理事長

広野小学校 校長

広野中学校 校長

秋田英博

磯邊すみ江

根本耕一

秋田英博

門馬まりえ

鈴木愛子

大和田義英

松本登志枝

古内伸一

大和田義英

根本 衛

根本一夫

渡邊正俊

猪狩光司

鈴木正範

根本安知

大越一夫

松本登志枝

鈴木洋四雄

小澤典行

小鹿山博之

常盤峻士

奥山吉範

柳沼敏文

ふたば未来学園中学校・高等学校校長

NPO法人広野みかんクラブ 理事長

広野町商工会 会長

広野町建設業組合 組合長

(株) 広野町振興公社 社長

広野郵便局 局長

広野町立地企業連絡協議会 会長

広野町安心安全ネットワーク会議 副会長

(株) J E R A 広野火力発電所 所長

広野 I G C C パワー合同会社 所長

東京電力ホールディングス (株) 福島復興本社代表

(株) J ヴィレッジ代表取締役副社長

あぶくま信用金庫 理事長

福島さくら農業協同組合 代表理事組合長

福島民報社双葉郡統括兼双葉南支局長

福島民友新聞社ふたば支社長

河北新報社いわき支局長

読売新聞いわき支局長

毎日新聞社いわき支局長

朝日新聞社福島総局いわき担当

東日本旅客鉄道株式会社 いわき駅長

社会教育委員会 委員

スポーツ推進委員 委員長

福島県双葉警察署 署長

對 馬 俊 晴

根 本 満

稲 村 光 弘

西 本 和 寿

中 津 弘 文

猪 狩 謙 一

佐 藤 三 男

高 橋 隆

脇 阪 俊 宏

寺 田 齊

秋 本 展 秀

鶴 本 久 也

太 田 福 裕

志 賀 博 之

鈴 木 仁

國 分 利 也

坂 井 直 人

矢 牧 久 明

柿 沼 秀 行

西 堀 岳 路

小 川 郁 夫

田 村 弘 一

根 本 敏 法

吉 田 浩 道

広野町の歩み



東日本大震災10年 3.11 広野町『被災の祈り』
(令和3年3月11日)



1,000人におよぶ子どもたちが学ぶ「教育の丘」

な石炭ガス化複合発電施設（IGCC）が運転開始されました。今後、世界の潮流からの新エネルギー社会の創出へ取り組んでいきます。

令和3年3月、東京五輪聖火リレーのグランドスタートとなった「Jヴィレッジ」は、平成9年に日本初のサッカー・ナショナルトレーニングセンターとして整備され、サッカー日本代表合宿等に利用されるなど、「サッカーの聖地」として大きな役割を果たしています。令和6年度からは全国高等学校総合体育大会（インターハイ）サッカー競技が開催され、「復興のシンボル」として、交流人口拡大、スポーツ文化の醸成に寄与しています。

広野町は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって地震、津波、原子力発電所事故による複合災害に見舞われ、全町避難を余儀なくされました。

町民の帰還に向けて、除染による環境回復、放射線による健康不安の払拭、インフラの復旧、商業施設の整備、医療福祉施設の整備、広野こども園、ふたば未来学園中高一貫校を始めとする教育環境の体制整備等、生活環境を一つ一つ整え、9割の帰還を成し得ました。令和5年9月30日には被災地復興の展望に向けて、「広野町復興創生の日」を制定しました。

ふる里の歴史、伝統、文化に対する誇りを胸に、本年を「ふる里復興・創生「漸進の年」」と位置付け、着実に歩みを進めながら、東日本大震災からの新たな時代の防災に強い「安心・安全な共生のまちづくり」に向け、新たな未来創造を展望してまいります。

令和七年七月二十四日

建 藤 智



“広野町復興創生の日” 制定
(令和5年9月30日)



インターハイ男子サッカー競技大会
(令和6年8月)



第27回ひろの童謡まつり
(令和6年10月12日)

沿革

1889年 (明治22年)	4月1日	町村制施行に伴い広野村誕生
1940年 (昭和15年)	4月1日	町制施行で広野町となる
1971年 (昭和46年)	3月	東京電力(株)火力発電所の誘致決定
1972年 (昭和47年)	8月	役場庁舎完成
1980年 (昭和55年)	4月	東京電力(株)広野火力発電所1号機営業運転開始
1997年 (平成9年)	7月	Jヴィレッジがオープン
1999年 (平成11年)	10月	天皇皇后両陛下下行幸啓
2002年 (平成14年)	3月	常磐自動車道広野IC開通
2006年 (平成18年)	4月	JFAアカデミー福島が開校
2011年 (平成23年)	3月	東日本大震災・福島第一原子力発電所事故発災
2011年 (平成23年)	4月	広野町全域緊急時避難準備区域指定へ
2011年 (平成23年)	9月	緊急時避難準備区域指定解除
2013年 (平成25年)	12月	東京電力(株)広野火力発電所6号機営業運転開始
2015年 (平成27年)	4月	県立ふたば未来学園高等学校開校
2015年 (平成27年)	10月	皇太子同妃両殿下下行啓
2016年 (平成28年)	3月	公設商業施設「ひろのてらす」オープン
2018年 (平成30年)	3月	広野駅東側ロータリー完成
2018年 (平成30年)	6月	天皇皇后両陛下下行幸啓
2019年 (平成31年)	1月	福祉のまちづくり宣言
2019年 (平成31年)	4月	広野こども園開園
2019年 (平成31年)	4月	Jヴィレッジ全面再開・Jヴィレッジ駅開業
2021年 (令和3年)	3月	広野町ゼロカーボンシティ宣言
2021年 (令和3年)	3月	東京2020オリンピック聖火リレー開催
2021年 (令和3年)	11月	広野IGCC発電所営業運転開始
2022年 (令和4年)	4月	広野町文化交流施設「ひろの未来館」開館
2022年 (令和4年)	10月	兵庫県たつの市との「日本一の童謡の里づくりのまち」共同声明
2023年 (令和5年)	4月	東町産業団地供用開始
2023年 (令和5年)	7月	「広野駅東ニュータウン」宅地造成工事竣工式
2023年 (令和5年)	9月	“広野町復興創生の日”制定
2023年 (令和5年)	10月	“ひろの童謡の日”記念日登録
2024年 (令和6年)	11月	JR広野駅新駅舎供用開始
2024年 (令和6年)	12月	「広野町マイクログリッド構築事業」着手
2025年 (令和7年)	5月	第36回巨木を語ろう全国フォーラム福島・広野大会開催
2025年 (令和7年)	7月	広野町制施行85周年記念式典

広野町の歩み

広野町は、東京都心から238キロメートル、仙台市から128キロメートル、福島県双葉郡の最南端に位置し、東西13キロメートル、南北7キロメートルの広さで、東に太平洋を臨み、西に阿武隈山系、いわき市と隣接しています。

阿武隈山系からなる浅見川をはじめ、北迫川、折木川の3本の川、ニッ沼や西の沢溜池などの池沼、源頼義とその長子義家の伝説がある五社山、城跡が残る高倉山など、四季折々に美しく彩られる豊かな自然を有していることに加え、全国でもミカンが栽培されている最北地の一つであることから「東北に春を告げる町」のキャッチフレーズで知られる温暖な町でもあります。ニッ沼総合公園内のトロピカルフルーツミュージアムでは、国産バナナ『綺麗』の栽培にも取り組んでいます。

明治22年に町村制施行に伴い、夕筋村、折木村、上浅見川村、下浅見川村、上北迫村、下北迫村の6カ村が合併し、人口3077人の広野村が誕生し、昭和15年の町制施行で人口4857人の広野町となりました。令和7年に町制施行85周年を迎えたところです。

広野町とエネルギーとの関わりは、明治初期の1870年代からの常磐炭田採掘地に始まり、昭和30年代まで常磐炭田の北端、人口約8000人の炭鉱の町として栄えました。その後、石炭産業は衰退しましたが、町の再生をかけた長期的な町勢振興策として企業誘致に取り組み、昭和46年に火力発電所の誘致を決定し、昭和55年に東京電力(株)広野火力発電所1号機が営業運転を開始しました。その後、広野火力発電所は6号機まで増設され、令和3年11月には二酸化炭素排出量の少ない高効率

主 催

広 野 町 長	遠 藤 智
広 野 町 副 町 長	杉 浦 孝 幸
広 野 町 教 育 長	根 本 良 政
総 務 課 長	飯 島 洋 一
復 興 企 画 課 長	加 賀 博 行
町 民 税 務 課 長	猪 狩 裕 一
健 康 福 祉 課 長	金 子 一 隆
こ ど も 家 庭 課 長	北 郷 功
環 境 防 災 課 長	佐 藤 尚 文
産 業 振 興 課 長	黒 田 泰 将
建 設 課 長	松 本 周 次
会 計 管 理 者 兼 出 納 室 長	横 山 正 文
議 会 事 務 局 長	林 聡 宏
教 育 次 長 兼 学 校 教 育 課 長	遠 藤 義 宏
生 涯 学 習 課 長 兼 公 民 館 長	鯨 岡 圭 介

◆広野町民憲章

わたくしたちは、美しい山と、川と、海に恵まれた広野町の町民です。

わたくしたちは、この郷土に住む自覚と誇りをもち、先人が築いた品性豊かな心を受けついで、お互いに心を合せ、明るく住みよい、緑と光の豊かな町をつくるため、ここに町民憲章を定めます。

- 一 自然を愛し、心のふれ合う、平和なまちにします。
- 一 仕事に誇りをもち、力を合わせて、豊かなまちにします。
- 一 互いに尊敬し、仲良く話し合える楽しいまちにします。
- 一 教養を高め、からだをきたえ、明るいまちにします。
- 一 あしたに希望を持ち、たくましく、前進するまちにします。

昭和55年6月制定

◆広野町章の意義



「ひろの」の「ひ」を図案化したもので、円形は融和と団結を表し、翼型は産業文化の発展と躍進を表現したものです。



町の鳥

目白

(メジロ)

美しい鳴き声と、目の周囲が銀白色で、その姿が美しいことから制定されました。



町の花

山百合

(ヤマユリ)

町内一円に自生し、そのどっしりした形姿が良いため制定されました。



町の木

桜

(サクラ)

町内全域に植えられており、特に山桜は山林内に多く自生していることから制定されました。



みかんの花